

報道関係者様各位

平成 25 年 8 月 20 日

山形大学を信頼性のあるオンライン ID 発行機関第 1 号として学認が認定 ～米国でも通用するアジア初のオンライン ID 発行機関に～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所
国立大学法人 山形大学

情報・システム研究機構 国立情報学研究所(所長:喜連川優、以下 NII)が推進する「学術認証フェデレーション^{※1}」(以下「学認」)では、山形大学(学長:結城章夫)からの申請に基づき、同大学が発行するオンライン ID とその ID を用いた認証の信頼性についての認定を行いました。その結果は米国 Open Identity Exchange^{※2}(以下、OIX)の確認後、Google や PayPal と並ぶ 7 番目の認定済 ID 提供機関として OIX のリストに登録されました。山形大学の同リストへの登録は、アジアにおいて初めての事例となります。

この登録により、同大学が発行するオンライン ID を用いて、米国連邦政府機関 NIH(国立衛生研究所)が提供する PubMed(日本を含む世界約 80 カ国で発行される生物医学系文献の検索サイト)等のサービスへのアクセスが可能となります。

概要

NII では、大学等がその構成員向けに発行するオンライン ID を学外の様々なサービスに利用するための認証連携基盤として「学認」の運用を平成 21 年より開始し、また、学認に参加する大学等を対象として、平成 24 年 7 月より LoA 1 信頼性認定プログラムの提供を開始しています。この認定は、米国連邦政府 FICAM (Federal Identity, Credential and Access Management)信頼フレームワークによって規定され、4 段階の保証レベル(Level of Assurance、LoA)のうち最も基本的な第 1 保証レベル(LoA 1)にあたります。保証レベルの認定は、TFPAP (Trust Framework Provider Adoption Program)に参加する認定機関によって行われますが、学認では、TFPAP に参加する OIX の下で「学認」として評価を行う枠組みを構築しており、評価および登録にかかるコストを抑えています。

今回、学認は、活動初期からの参加校である山形大学の申請を受け、同大学が発行するオンライン ID について LoA 1 審査を初めての事例として実施し、OIX は確認後、学認による LoA 1 認定第 1 号として、OIX のリストに登録しました。LoA 1 の認定を受けることにより、米国連邦政府機関である NIH(国立衛生研究所)、NLM(国立医学図書館)、LOC(米国議会図書館)等を始めとした海外のサイトへの接続が可能になります。

FICAM をはじめとする信頼フレームワークは、オンライン ID(Web サイト等へのアクセスに利用するユーザ ID と本人確認のためのパスワード)を信頼して利用できる技術とルールを定めるものです。このような信頼フレームワークが世界的に広く共有されることにより、オンライン ID を提供する様々な組織と、ID を受け入れる様々な組織とが素早く安全に連携できる、デジタル ID のエコシステムが実現されます。また、エコシステムが実現されることで、ユーザが記憶しておくべきパスワードの数が少なくできるとともに、ID 窃盗等による社会全体のリスクを低減することが可能です。また、ID 提供側と ID 受入れ側との信頼関係の構築が容易になり、従来は実現が難しかった利便性の高いオンライン・サービスの創出と普及が期待されます。

※1. 学術認証フェデレーション(学認):

学術認証フェデレーションとは、教育や研究といった学術向けのコンテンツや情報サービスを利用する大学などと、それらを提供する機関(出版社、通信事業者、大学など)から構成された連合体です。各機関はフェデレーションが定めた規程(ポリシー)を信頼しあうことで、相互に認証連携を行うことができます。認証連携を実現することで、大学が発行する1つのID・パスワードをそのまま利用して、他大学や商用のサービスが利用できます。このとき、そのIDやパスワードがサービス提供者に知られることはありません。また、シングルサインオン技術を用いているため、複数のサービスを連続して利用する場合には、2回目以降のID・パスワードの再入力の必要もありません。例えば、他大学の無線LANをいつも大学で使用しているIDとパスワードで利用することができ、かつ自大学が契約している電子ジャーナルヘシームレスにアクセスすることも可能になります。学術認証フェデレーションには現在60以上の大学等が参加しています。詳細や利点は、次のURLをご参照ください。

<http://www.gakunin.jp/>

※2. Open Identity Exchange (OIX):

OIXは、サイバー空間上で最も重要視される“Trust(信頼)”を実現するための枠組みを提供する団体です。すでにインターネットでは、OpenIDやOAuth、SAMLといったIDに関する標準技術が普及していますが、テクノロジーだけでは「第三者が発行したIDをどうすれば信頼できるのか？」についての答えは出せません。OIXは、この課題について、ビジネス／法制度／ガバナンスなどの側面からソリューションを提供します。OIXは、Google、PayPal、AT&T、Verizon、Symantec、Booz Allen Hamiltonなどのメンバー企業から構成される民間の非営利団体です。OIXに認定されているオンラインIDの発行機関(Certified Identity Providers)については、次のURLをご参照ください。

<http://openidentityexchange.org/certified-providers>

※3. Federal Identity, Credential and Access Management (FICAM):

米国連邦政府において2008年に設置されたFICAM小委員会は、国立標準技術研究所(NIST)等が定める電子認証ガイドラインに沿った民間の発行するオンラインIDを活用するTFPAP(Trust Framework Provider Adoption Program)を推進しており、オンラインID発行機関を認定する信頼フレームワーク認定事業者(Trust Framework Providers)を管理しています。FICAMに認定された信頼フレームワーク認定事業者については、次のURLをご参照ください。

<http://www.idmanagement.gov/approved-trust-framework-providers>

<<本件に関する問い合わせ先>>

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術基盤課 学術認証推進室 特任教授 中村素典

E-mail: motonori@nii.ac.jp

<<報道に関する問い合わせ先>>

国立情報学研究所 総務部企画課 広報チーム(担当:坂内)

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

TEL: 03-4212-2164 E-mail: kouhou@nii.ac.jp